

各 位

2025年3月4日
株式会社インプレス**RAW 現像の最新テクニックが身につく『Lightroom Classicの教科書 AI 対応版』を
3月6日（木）に発売**

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、RAW現像の基本と応用テクニックが学べる書籍『Lightroom Classicの教科書 AI 対応版』を2025年3月6日（木）に発売いたします。

**■ Adobe Lightroom Classicの基本と応用テクニックが満載**

RAW現像や画像データの補正・管理の定番ソフトウェアである「Adobe Lightroom Classic」。最新バージョンではAI機能を搭載し、直観的でスピーディーなフォトタッチ機能が強化されました。本書は本ソフト各機能の使いこなしと、写真を美しく仕上げるためのテクニックを解説する1冊です。

■ フォトタッチ初心者をしっかりサポート

写真家にとってフォトタッチは撮影テクニックと同じぐらい重要なもの。中でも直観的な操作で思い通りに仕上げられるAdobe Lightroom Classicは写真愛好家の中でも最も人気のソフトウェアです。本ソフトの最新バージョンではAIを活用した削除や被写体を追加するツールが搭載されています。本書ではそれら最新機能を網羅したLightroomの基本から写真仕上げの応用までを解説しています。基本的なワークフローやショートカットキー一覧なども掲載し、初心者にもわかりやすい内容に仕上げています。

■ 本書は以下のような方におすすめです

- ・ フォトタッチを勉強したい方
- ・ Adobe Lightroom Classicを使いこなしたい方
- ・ 最新の画像AI技術に興味がある方

Lightroom BASIC

その他調整

より便利で簡単になったトレンド機能

Lightroom Classic はバージョンアップのたびに新しい機能が追加されており、最新バージョンでは AI を活用した機能やこれまで難しかった処理や表現もできるようになっている。ここでは、最新のトレンド機能である「生成 AI 削除」や「ぼかし（レンズ）」を紹介する。



生成 AI 削除

不要な寄り込みを自然に消去できる

生成 AI 削除は、写真に写り込んでしまった不要なオブジェクトやコマを簡単に取り除く機能。例えば、ポートレートの背景に通行人が写ってしまった場合や、風景写真に写り込んだ電柱などを消したいときに便利だ。従来は不要な被写体を厳密に選択したり、コピー＆ペーストしたりする必要があったが、削除したい部分をブラシでなぞるように選択するだけで、AI が周囲の背景と自然になじむように補正してくれる。3つのバージョンを生成して提示してくれるので、好みの結果を選び、生成は何度でもやり直して、結果は毎回異なる。

モード
生成 AI 削除を使いたいときはモードの「削除」を選択しよう。「書き」でも AI 削除は使えるが操作性が複雑になる。「コピー＆ペースト」では利用できない

サイズ
なぞるブラシのサイズを変更する。スライダーで調整できるほか、マウスホイールを使ってサイズの変更が可能だ

ここをクリックすると削除ツールが表示される

生成 AI を使用
生成 AI 機能を使いたいときにチェックする。なお、生成 AI の利用にはガイドラインがある。詳細ページの「Adobe 生成 AI ユーザーガイドライン」を読み、違反することのないように注意しよう

オブジェクトを抽出
チェックを入れておく。被写体をざっくり指定するだけで削除する対象を自動的に決定してくれる。チェックを外せば自分で細かく削除する対象を指定できる

バージョン 1/3 をクリックすると、結果が 3 パターンで切り替わる

好みの背景で「生成」をクリックする

バージョン 1 バージョン 2

周囲と同じコスモスの花で埋められるが、濃いピンクのコスモスの数が違うバージョンが用意されていた

BEFORE AFTER

背景に写り込んだ人物が自然に削除された

HOW TO 生成 AI 削除の操作手順

① 「削除」を選択

② 「生成 AI を使用」と「オブジェクトを抽出」にチェックを付ける

③ 消したい被写体をなぞる

④ うまくマスクされない場合は追加や減算を行う

⑤ 「削除」をクリック

うまく消えない場合は、ブラシを使用する

オブジェクトを抽出にチェックを入れていると、被写体の形を自動で認識して選択してくれる。被写体が複雑な形のためうまく消えなかった場合は、選択済みにあるマスク「追加」で選択範囲を狭めたりしながら選択範囲をきれいに調整しよう。

うまく消えない場合は、ブラシの「塗」で選択範囲を広げたり、「減算」を使って選択範囲を狭めたりして調整する

AI 削除機能を使って人物を削除したが、複雑な形の影が残ってしまった

被写体が選択されるようにブラシを塗る

塗られた影をきれいに削除できている

Lightroom Classicに搭載された機能を6つのカテゴリーに分けて詳細に解説します。

LESSON 13

START

STEP 1 肌の背景の明暗差をなくす

画像のコントラストはトーンカーブで調整するので「基本補正」ではベースとなる明るさを作っておく。露光量で明るさを整えつつ、テクスチャでは解像感をアップしておき、画像全体のディテールがハッキリとわかるようにしておく。さらに、明暗度とコントラストを下げると肌の調整がしやすい画像となる。ハイライトと白レベルは下げて、シャドウと黒レベルは上げることで最終的には画像全体の明るさをフラットにしておく。

STEP 2 基本補正で明るさと色のベースを整える

色温度は撮影時設定よりわずかに下げて暖みを感じる。明暗度の少ない画像をフラットに補正しておく。トーンカーブで調整し、露光量やハイライトを調整して、明暗は即入つつ解像感をアップする。露光量が高いので、ベースの色を合わせるために「色温度」の色温度をわずかに、テクスチャの色温度を色温度をわずかに、テクスチャの色温度を色温度をわずかに調整する。

STEP 3 トーンカーブをS字に調整してコントラストをつける

フェードのかかた中に、肌の白さを調整する。トーンカーブのシャドウの部分を大きく持ち上げて肌の影になっている部分を明るくしつつ、明暗度を保つ。

STEP 4 カラーミキサーを使って色のバランスを整える

トーンカーブでコントラストを上げただけで、写真の色は濃くなる。肌の色を自然にするには「カラーミキサー」で肌の色のバランスを整える。肌の色を自然にするには「カラーミキサー」で肌の色のバランスを整える。肌の色を自然にするには「カラーミキサー」で肌の色のバランスを整える。

STEP 5 AI 光の印象を強めるために目と肌の質感をしっかりと輝かせる

引きのポートレートは人物マスクを使用して、顔の各部分ごとに調整する。肌の透明感と立体感を引き出すために「人物マスクオプション」の肌の肌を使用し、シャドウと黒レベルを下げてコントラストを調整する。目元の赤い部分は目立たせたくないので「目の強調」の彩度を下げる。最後に、明るく、キラキラと瞳に光が入っているように見せるために虹彩と瞳孔の露光量をプラスする。このように「人物マスクオプション」を使用して、各パーツごとに細かく調整することで、顔の表情を印象的に仕上げられる。

① 肌の肌
肌は柔らかい雰囲気にしたかったので露光量を抑えて色も少し調整してマゼンタをさせる

② 目の強調
ポイントカラーで目元を白くする。スポイトツールで瞳をクリックして違和感のない程度に彩度を下げる

③ 虹彩と瞳孔
瞳目に入る光が輝くことで露光量をアップする

PORTRAIT

STEP 4 カラーグレーディングで瞳部にブルーを入れる

目を自然にブルーにするには「カラーグレーディング」を使用する。瞳の色を自然にする。シャドウにはブルーをさせる。瞳部にブルーを入れることで、瞳の色は自然に見える。ハイライトにはオレンジをさせることで調整する。

④ シャドウには深いブルーをさせる

⑤ ハイライトにはオレンジをさせる

STEP 5 人物マスクオプションを活用してパーツごとに調整する

瞳の白目、目の奥を調整して、キラキラとしたイメージのポートレートに仕上げよう。特に目の調整がポイントであることを意識して調整する。

FINISH

人気写真家20人の現像テクニックをステップで解説しています。

■本書の構成

本書は大きく分けて2つのパートで構成されます。前半部は調整項目が変化量に応じてどのような効果を与えるのかを示します。HOW TOでは操作手順をしっかりと解説、HINTでは初心者が悩むであろうポイントをサポートします。後半部は風景やポートレート、都市風景、花火などのジャンルで活躍する人気写真家20人による実践テクニックを紹介。ステップ by ステップで手順を解説するため、読者が自分の写真ですぐに真似できます。

<基本>目的別に6つの現像機能を理解する

- 01 ベースの調整
- 02 明るさを変える
- 03 色を変える
- 04 質感を変える
- 05 マスクの活用
- 06 その他の調整

<実践>写真家20人の現像テクニックを学ぶ

- 01 春の日差しを受けて白く輝く川辺の桜：藤原嘉騎
- 02 都会の夜景で魅せるサイバーパンク調：キツネツキ
- 03 春の優しい光の中で浮かび上がる子猫：三吉良典
- 04 すがすがしい朝日が残雪を照らす山岳絶景：佐々木和一郎
- 05 柔らかい光芒が注ぐ朝の爽やかな清流：saizou
- 06 湖上に打ち上る花火を色鮮やかに仕上げる：yukkey
- 07 雨上がりの街を映画のように仕上げる：上田晃司
- 08 逆光でキラリと輝くシダレグリの黄葉：長尾岬生
- 09 強い日差しを浴びて輝く夏空と海の青色：館野二郎
- 10 粒状感のある重厚なモノクローム：鈴木サトル
- 11 色の抜けを良くして肌の透明感を出す：高木慎平
- 12 黄色いブナ林の中で小さな葉を輝かせる：八木千賀子
- 13 輝く瞳が印象的なポートレート：Mizuki
- 14 紅葉の赤を鮮やかな記憶色で表現する：木村琢磨
- 15 青空を印象的にする冬晴れの雪景色：三吉勇基
- 16 立ち昇る天の川をハッキリ目立たせる：湯浅光則
- 17 海岸にそびえる奇岩と夜闇に輝く天の川：小川 惇
- 18 夜景を輝かせるダイナミックな雲海：Yusuke.O
- 19 夏休みのワンシーンをアニメ調に仕上げる：おくで
- 20 赤く染まった空が幻想的な水辺の夕景：芝崎裕司

<コラム>

AIを活用したTips集／カタログ写真管理術／覚えておきたいショートカットキー

■書誌情報



書名：Lightroom Classicの教科書 AI対応版

著者：デジタルカメラマガジン編

発売日：2022年3月6日（木）

ページ数：160ページ

サイズ：B5変形

定価：2,200円（本体2,000円＋税10%）

電子版価格：2,200円（本体2,000円＋税10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-021247

◇Amazonの書籍情報ページ：<https://www.amazon.co.jp/dp/4295021245>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1124101114>

■著者プロフィール

デジタルカメラマガジン

『デジタルカメラマガジン』は1997年創刊のデジタルカメラ専門月刊誌です。「カメラがわかると写真は楽しい！」をキャッチフレーズに、どこよりも早く詳しいデジタルカメラの最新情報と、デジタルフォトの楽しみ方や作品づくりのノウハウをお伝えしている雑誌です。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計 8,000 万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT 関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch シリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向け IT 関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT 関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: pr-info@impress.co.jp URL: <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。